



公益社団法人Knotsノット・結び目
WEBサイト <http://knots.or.jp>

[今号のメッセージ]

環境省 動物愛護管理室
室長 長田 啓さん

私たちの多くは、動物実験の恩恵を受け、と殺された家畜の肉を口にしています。ペットとして犬や猫をかいがっています。一方で、動物に配慮して肉や卵を一切口にしない人もいるし、吠え癖のついた犬や放し飼いの猫の飼い主によって、苦悩や憤りの日々を送っている人もいます。

令和元年度の世論調査に、ペットの殺処分に関する質問があります。約4分の1の方は、いかなる場合も人間の判断でペットの命を奪うべきではないと考えていました。動物の命に寄り添う温かさを感じる方で、苦みから解放することより生きることを重視するとい

公益社団法人Knots(結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。Knotsが日頃お世話をなっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

「人と動物が共生する社会像」について いまこそ、正面からの議論を!

處分が10年で7分の1に減少した方で、お年寄り

がペットを飼うにも相当

の覚悟が必要な時代とな

りました。

う考えは、国際的な動物

福祉の原則にはそぐわな

いと見ることもできます。

動物観は本当に多様で

動物園や学校での動

物飼育にも厳しい目が向

けられ、規制の強化でペッ

トの価格も跳ね上がり

ました。子供たちが動物

を目にし、動物に触れる

機会は以前より明らかに

少なくなっています。

皆さんには理想とする人

と動物の関係を絵容じ

どちらも不可欠なことで

てイメージでできますか。

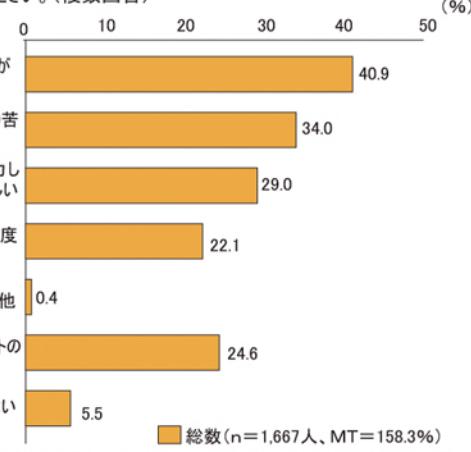
一人ひとりのゴールが達え

ば社会的な合意形成は

困難です。

ペットの殺処分に対する意識

あなたは、ペットの殺処分について、どのような場合に許容できるとお考えですか。
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)



「環境問題に関する世論調査(令和元年8月実施)」より